

平成7年度 江戸川区立西葛西小学校 学校経営方針

校長 森川 康一

I 学校の教育目標

日本国憲法及び教育基本法等の教育関連法規や「ともに生きるまちを目指す条例」、「2100年の江戸川区共生社会ビジョン」等の理念・方針に基づき、特別支援教育や不登校、LGBTQ等の教育課題を踏まえ、児童・保護者・地域の実態に即して次の教育目標を設定する。

教育目標 ○考える子 ○心豊かな子（重点目標） ○たくましい子

II 目指す学校像

- 児童が明るく元気に学び合える学校（子どもが通いたい学校）
- 保護者が安心して子どもを任せられる安全な学校（保護者が通わせたい学校）
- 地域に開かれ、保護者、地域から信頼される学校（地域が応援したい学校）
- 教職員が笑顔で共有・協働し、自分の力を発揮できる学校（教職員が働きたい学校）

III 学校経営の基本方針

「子どもが通いたい」「保護者が通わせたい」「地域応援したい」「教職員が働きたい」学校を目指し、保護者や地域との連携を深めるとともに、教職員が日々の教育活動を通して、教育課程の指導の重点である「学力の向上」「体力の向上」「共生社会の推進」「健全育成」「地域に広く開かれた学校の実現」等に取り組んでいく。

IV 学校経営の方針及び具体的な取組

1 学力の向上

- （1）授業改善を推進し、児童が自分の思いや考えを表現したり交流したりする機会を設け、主体的・対話的で深い学びを実現する。
 - 学年を単位とした小グループによる実践的な校内研究
 - 意図的・計画的な読書科の年間計画の策定、思考ツール等を活用した探究的な学習の推進
 - 一人一台端末の活用による自分の考えをまとめたり、友達と交流したりする学習の重視
- （2）教科担任制を一層推進し、教員の専門性を生かした指導を実施する。
 - 高学年（理科・社会）に加え、令和7年度から中学年（理科・社会）でも通年で実施
 - 低学年における交換授業の積極的な実施
- （3）学習の基盤となる基礎的・基本的な学習内容を児童が確実に身に付けられるようにする。
 - 東京ベーシックドリルや区学力調査等の結果分析による個々の学習到達度の把握、課題を重点化した授業や家庭学習等の実施
- （4）特別活動における自発的・自治的な活動を通して、児童の自主的・実践的な態度を育む。
 - 児童の気付きを生かす学級活動や練習の過程を大切にされた学校行事に向けた教員による適切な評価や児童の自己評価・相互評価の実施

2 豊かな心の育成

- （1）「江戸川区子どもの権利条例」の趣旨を踏まえ、一人一人を大切にする教育活動を展開する。
 - 教科等における計画的な指導の実施
 - 児童のよさやがんばりを積極的に褒めたり、児童が納得できるように課題を伝えたりする共感的な理解に基づいた児童の心に響く生活指導の実施
 - 望ましい人間関係の育成を目的とした縦割り班活動等の異学年交流の実施
 - 友達のよいところ探し等の相互評価を行う機会の設定
 - 担任等による日常的な観察や積極的な声かけ、教員間の共有
 - 専科による副担任制の導入

- (2) 「いじめ防止基本方針」に則った組織的ないじめ防止対策を行う。
 - 「いじめ防止基本方針」の見直し及び保護者等への積極的な周知
 - 委員会の定期的な開催による情報把握、対応方針の共通理解
 - 被害児童への支援、加害児童への指導及び支援、保護者連絡等の迅速な対応による早期解決
 - ふれあい月間における調査・分析の実施による面談や聞き取り等の迅速な実施、児童がSOSを安心して出せる環境の整備
- (3) 「Hot Project」の趣旨を踏まえた組織的で積極的な不登校対策を行う。
 - L-Gate「毎日の記録」を日常的に活用した状況的確な把握による不登校の未然防止
 - やむを得ず学級に入れない児童が安心して過ごせる居場所の提供、エンカレッジ・サポーターの効果的な活用
- (4) 特別支援教育やLGBTQ等の視点を踏まえ、児童が自分らしく生活できる教育活動を展開する。
 - ユニバーサルデザインを基調とした誰にとっても分かりやすい授業、居心地の良い教室環境づくり
 - 小・中のつながりを意識した特別支援学校や学級等との副籍交流、共同学習の充実
 - 「人権教育プログラム」を活用した人権教育の実施

3 体力の向上

- (1) 児童が運動への意欲を高め、基礎体力の向上を図れるようにする。
 - 体力テストの結果分析を踏まえた年間指導計画の見直し、問題解決的な単元計画の作成と実施、運動量の確保、個に応じた配慮等を踏まえた体育科の授業改善
 - 「江戸川っ子なわ跳びチャレンジウィーク」に向けた学年の発達段階や技の段階等を考慮した本校独自の縄跳びカードの活用
 - PTA・学校応援団との連携による本校の特色ある教育施設である土俵を活用した「わくわくすもう教室」や「わくわくすもう大会」の実施
- (2) 健やかな体の基盤となる食に関する指導を推進する。
 - 給食指導時における食材の紹介や、児童が考案した献立の実施
- (3) 区の重点施策である歯磨きやフッ化物洗口を習慣化させ、児童の健康な歯を守る。
 - 全学年における週1回の歯磨き及びフッ化物洗口の実施

4 学校組織の活性化

- (1) 意図的、計画的に教育課程を編成し、組織的かつ柔軟な発想で教育活動を展開する。
 - 各教科等の関連を踏まえた指導計画の作成による教科横断的な指導の充実、週ごとの指導計画による教育課程の適正な管理
- (2) 一人一人の教員が専門性を高め、持ち味を発揮して教育活動に取り組めるようにする。
 - 校内研究との関連を図ったOJTの推進
- (3) 「働き方改革」を進め、教職員が児童の指導に集中できるようにする。
 - 職員会議・企画委員会の廃止による会議の精選、文書決裁システムの徹底と経営会議の充実
- (4) 教育公務員としての自覚を高め、「服務事故0」を遵守する。
 - 管理職による教職員の意識啓発、本校の実態に即した服務事故防止研修の実施
- (5) 費用対効果を考慮し、学校予算の適切な執行を行う。
 - 学校経営方針を踏まえた物品の購入や管理、省エネ・リサイクルといったSDGsの視点を大切に節電や節水等の「学校版もったいない運動」の実施
- (6) 安全管理を徹底し、防犯・防災意識の高い学校運営を行う。
 - 民間委託用務と連携した安全点検を踏まえた迅速な対応による安全管理、施錠の徹底
 - 担当者との連携による避難所開設訓練の充実、「江戸川区ハザードマップ」を活用した防災教育の実施

5 地域に開かれた学校の実現

- (1) 教育活動の様子等について積極的に公開する。
 - 年3回(各学期1回)の土曜授業実施による確かな学力の定着を図る授業の公開
 - ホームページの毎日更新による日々の授業や学校行事、給食指導、各学年の教育活動の様子等の発信

- (2) 保護者や地域の方々の協力による教育活動を推進する。
 - 学校応援団との連携による東京都愛鳥モデル校としての巣箱づくりの実施
 - 保護者による読み聞かせの実施
- (3) 保護者や地域の方々の声を踏まえ、教育活動の見直しや改善・充実を図る。
 - 統一された重点項目による学校関係者評価の実施、結果の分析・公表
- (4) 関係機関の専門家を活用し、家庭との連携を強化する。
 - スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家の積極的な活用による子育ての悩みや不安等について相談できる機会の提供
 - フリースクール等の学校以外の居場所についての保護者への紹介等、どこともつながりをもてていない児童を0にする取組の推進